

You 里山クラブ
You

雜木林

小川町里山クラブ "You-You"

編集部発行 第4号 2005年3月20日



炭の力



里山クラブ You You の
白炭窯は
ただ今 稼働中
いっさいを放出しつくした
炭の力
循環する樹靈のこだま



角山町有林里山整備計画 滝ノ沢 (7.2ha)

平成17年3月



小川町里山クラブ "You-You"
代表 佐藤 章



小川町環境基本計画（平成14年度）では、20世紀の反省の上に立ち、その基本理念として環境優先、経済優先から環境優先の町づくりを掲げ、21世紀は自然と共生する「里山文化」育まれる小川町と位置づけております。

また環境保全条例（平成17年4月施行）では、環境の保全及び創造は、町、町民及び、事業者との協働を大切にしつつ推進されなければならないとしております。

”小川町里山クラブ You-You”では40年以上にわたって放置されてきた町有林（7.2ha）を町との協働で整備を始めて3年。植生や動物、地質、歴史等の調査や下刈り等の整備。資源循環型の里山資源の活用、子供達の環境教育の場、新しいコミュニティー創出、都市と農村の交流、雑木林の癒し効果等と、多くの町民の様々な夢や期待を実現するため、町と協議し、町有林の整備計画を策定いたしました。

里山整備計画は、共生への「虹のかけはし」

事務局 輪 湖 翔

1. 里山と多くの人々の思いを活かした道しるべ

このたびまとめられた角山滝ノ沢町有林里山整備計画は、私達小川町里山クラブ“you—you”的3カ年にわたる活動のまとめです。「里山づくり基本方針」をもとに里山の植生や小鳥の観察、季節毎の里山とのふれあいや手入れ、クラブ会員それぞれの思い入れがこめられています。また、玉川村在住の田村説三先生や県庁の大沢太郎氏の指導・協力や各地の実践事例にも支えられています。

みんなの共有財産として、里山づくりへの「虹のかけはし」にして行きましょう。

2. 生物多様性・共生が里山の魅力

わたくしたちが心を癒される里山の魅力はなにでしょうか？

私は、里山のすべての生物がひとつの生命から進化した仲間であり、その一員として、多様な仲間が織り成す生態系（生命やエネルギーの循環）の調和するリズムの安心感・安定感ではないかと思っています。

自然から離れ、社会から疎外される危機意識を常に負わされている現在社会のストレスを癒すのは、里山の多様性を認める安定感ではないでしょうか。

里山整備計画も、里山の多様な生物の声を聞いて、それぞれの多様な可能性を引き出すような、多様な整備作業を用意しました。里山クラブも、里山の多様性を受け止めるられる、多様な人材が集まりましたので、これからが一層楽しみです。

3. 整備計画は参加者のルールの共有

多様性の魅力は、数の多さだけではなく、多様な存在を認めあった上での共存・共生であり、そのことが生物進化・発展の源泉だと言われています。

わたくし達は、里山観察や整備の体験・識者の助言によって、現植生や地形等に配慮して、わたくし達の里山への期待を「憩い」「循環」「体験」に区分して実現するエリアを設けることにしました。また、エリアの中で、植生や利活用目的に応じて整備計画（整備目標と作業計画）を区分して設けてあります。

ぜひこの整備計画を、何回も目を通して一人一人が自分のものにし、わたくし達の里山整備の共有ルールとして、大切に守って実践してゆきましょう。

4. 実践による里山の変化を観察しましょう

整備目標で作業を設定しておりますが、目標実現には不確定要素が多くありますたとえば、ヤマツツジの開花を目指した作業でも、ヤマツツジの花芽形成期の照度条件は解っていても、検証によって環境条件を修正して行くしかありません。

山野草の開花を目指す下刈りや落ち葉搔き、林縁区の除伐や下刈りにしても観察しながらの試行錯誤の繰り返しは避けられません。里山の変化を見逃さない感性・眼力が求められますが、発見したあなたは一層里山づくりのトリコになることでしょう。

5、みんなが、自分の里山とのふれあい、資源を活かす計画を
整備計画と言えば、「里山の自然をわたくし達がコントロールして、わたくし達に都合の良い自然を作り上げる」イメージ=西欧的な人間中心の自然観が漂います。

わたくし達の基本方針は「共生」であり、先人が山の神に祈りながら継続的な利活用や水資源を維持するために、里山の地形・地質や草木・動物を詳しく観察熟知して生かしてきた、わが国の伝統文化=里山文化を継承することにあります。

自然の一員としての自覚は、地域における生態系の共有する環境と相互依存する生命の循環に対する敬虔なる感謝を通して培われてきたものと思われます。

この意味では、逆説的にみえても、わたくし達一人一人が、里山資源を日常的に利活用して絆を強くしてゆくことで、より深い里山への愛着が生まれると考えます。

さあ 里山へ 癒し、楽しみ、健康、山菜、手入れ、観察、…自分を探しに！

6、里山に愛情を感じ、楽しみをもっと深く・大きくするために

資料編には、山田会員による解りやすい地図、貴重な観察記録である植生組成図と垂直分布図、花暦春・秋編、百武会員による野鳥観察記録があります。

共に何回も足を運んでの里山観察の記録です。すばらしい会員に恵まれた幸せを感じますが、それだけでは両会員にも申し訳ありません。ぜひこれを会員一人一人の共有知識にし、各人の観察記録でデータの完成度を高めたいものです。

忙しい日々の生活に追われていると、ついつい自分の固定観念でものを見たり、目をそらして、生きる者が発している輝きを見落として、感動のない灰色の世界を作って視界を狭くしてしまいかがちです。

観察のスタートは対象に対する感心で十分ですが、愛情があれば最高です。ひとつの生き物でも、よく見てみると必ず今まで気づかなかった新しい発見があります。そのことはつぎの感心や疑問につながり、更なる発見へと続きます。

里山の自然観察は、新しい自分の発見につながります。

7、里山の魅力をより多くの人に

資料編5頁の循環の森ゾーン施行区分図には、平成34年までの計画が示されていますが、私の年齢ではかすんでしまいそうです。おかげさまで、着実に熱心な仲間が増えていますが、整備計画を定めたことをステップにして、より広い町民の参加に向けた取組みを進めたいと思います。

かつて入会山として活用していた地元角山地区や入会山を開発してきたみどりが丘地区での取組みと、町役場広報の働きかけなどが期待されます。

わたくし達会員の周りの人へのお誘いはぜひ続けて行きたいことです。

そして、定例会以外でも、仲間による整備作業企画が自主的に広まることも活動の巾と機会を広めることになります。

—整備計画をステップに夢の里山づくりへ 虹のかけはしをみんなで—

町有林の里山整備で見えてきたこと

森林インストラクター 山田寛和

2004年師走のニュースは、県内の山里で梅が開花したと報じ、休日に町有林に行ってみたのですが、谷津内にあるウメはつぼみが大きくなっている程度で開花には至っていませんでした。暖かいとはいえ、ノハラアザミやキツネノマゴなど初冬まで開花が見られる草本もさすがに終わっていました。水が湧き出でる谷津とコナラやヤマザクラの大木に囲まれたこの地形は、気候が安定しているのだなあと感じてくれます。

そうはいっても温暖だったこの一年、早春から盛夏まで開花時期が前倒しで、予測を立ててカメラを持っていった結果、既に盛りを過ぎていてがっかりさせられたこともありました。

明るくなった林床にヤマユリの大輪

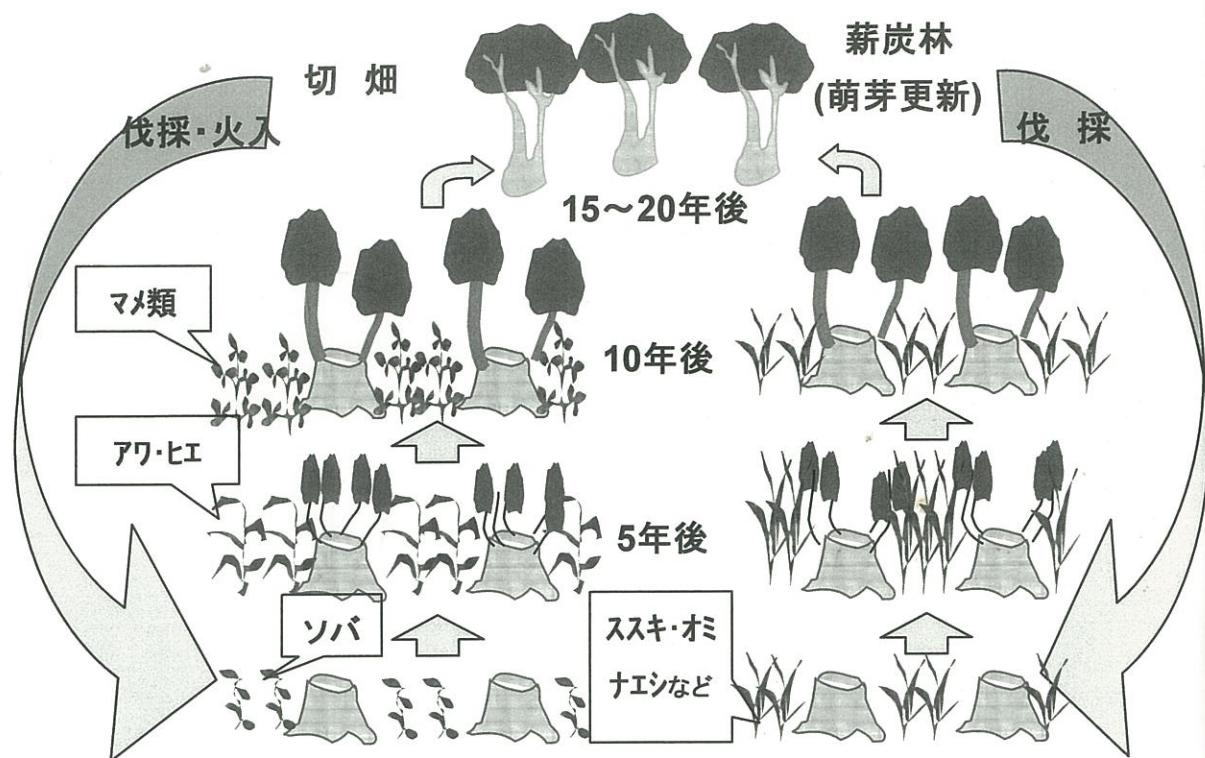
観察のなかで開花時期以外に注目したのは、里山整備後の林床植物の変化でした。03年より本格的になった里山クラブによる町有林整備のなかで、尾根沿いで散策路の整備、萌芽更新用伐採が始まり、明るい林床が増えてきました。おかげで03年にはつぼみが着かなかった尾根沿いのヤマユリは、この年に白い大輪を一つ咲かせましたし、コナラやヤマザクラを伐採した跡には、これまで尾根沿いの山道沿いに限られていたオカトラノオやアキノキリンソウが伐採地全体に広がりつつあるほか、キキョウやリンドウなど明るい林縁に咲くいわゆる里山植生が戻ってきていることを実感し嬉しく思いました。

萌芽更新、一年で 2 m

樹木の方は、一年目に伐ったコナラやヤマザクラの株からすでに芽が萌出でて2m程度にまで育ち、明るくなった林床は、アカマツやヤマハギ、アカメガシワなどの陽樹のゆりかごになっていました。意外だったのは、この活動のシンボルでもあるヤマツツジの開花が森林整備とリンクしていないことです。長期的に観ないと確かなことはわかりませんが、光環境以外にも樹木地震の栄養状態、すなわち土壌の状態も影響しているのかもしれません。このことはギンランやイチヤクソウにも言えることでした。

こうした観察を続けたおかげで、現在における里山整備が、単に昔の文化を体験、伝承するためだけにあるのではなく、失われつつある生物多様性の回復に欠かせないものであることを改めて実感しています。

里山の成り立ち



近年日本全国で身近な“ヤマ”を自分たちの手で守り育てていこうという動きが活発になっています。初期の頃は、開発の危機にさらされた雑木林の保全がその目的のメインに据えられていたことと思いますが、里山の保全という概念が広まるにつれ、“ヤマ”的成り立ちにかかる人々の暮らしを見直されてきました。都市近郊ではほぼ途絶えた萌芽更新という古来の技術がいまだに受け継がれている地域の慣習が注目されるにつれ、自然がもつ再生力のすばらしさ、再生どころか生物の多様性がなおいっそう増していく事実を再認識し、先人達が行ってきた暮らしは、決して自然を搾取してきたのではなく共生してきたのだと気づかされたのではないでしょうか。

実際クヌギやコナラは、老木でない限り伐っても株から芽が出てくる上に根は大木時まま広く地をはい水や養分を吸い上げますから、どんぐりから育つより早く大きくなります。伐採後二年もすれば地面は様々な植物に覆われ、野鳥や小動物が戻ってくることでしょう。

確かに利用放棄されたとはいえ、開発の手を逃れ大きく育ったクヌギやコナラの林を保全のために伐ることは非常に抵抗のあるもので、それが自然を保つことに繋がるのか疑問に思っている人もたくさんいることでしょう。もちろん残された“ヤマ”が面積的にわずかな場合は、大きな樹自体を保全することが大切ですし、“ヤマ”をすべて伐採すればいいというものではありません。ただ、大きく育った樹は立派でも、林内はシノやヒサカキに覆われ、单调な生態系になっていることが多いものです。

ヤマの若返りには伐採も

まずは、林床を覆ったシノやヒサカキを刈り払ってみましょう。林縁を覆ったつるを除いてみましょう。それまでなかに入ることすらためられた雑木林は、一変魅力ある“ヤマ”になります。数年たてばヤブコウジやヤブラン、オオバジャノヒゲなど日陰でも育つ限られた草本植物が繁茂します。これまで日陰に耐えてきたシュンランやギンラン、イチヤクソウなどが開花するかもしれません。それで満足するなら定期的にシラカシ、アラカシやヒサカキなどの常緑広葉樹の稚樹を除いていけばいいのですが、生態系の奥行きはそれ以上広がっていきません。そこで面的には一部であってもまとまった区画で大きい樹を伐採することを薦めます。これにより、“ヤマ”は若返り、明るい土地を好む植物が回復していくのです。これを次々に15年周期くらいで繰り返していけば、明るさを好む植物と暗さに耐えられる植物が次々に分布を移り変え、生態系の広がりを維持することができます。

伐った後の木の活用を

ここで留意しておきたいのは、伐ったクヌギやコナラをどうすべきか、ということです。単に伐り倒して放置しておくのでは、もったいない（決して無駄というわけではありません）上に計画的に何年もかけて伐採、更新していくなかで、伐った樹の利用を考えていかないと活動の目的を失いがちになると思うのです。確かに公認で大きな樹を伐採できることに興奮し自分自身の力で大きな樹を伐ることへの快感を覚える人は多いでしょう。その機会を得られるだけでも満足するとは思いますが、いくら生態系がといつても成果が目に見えて明らかになつてこないと、活動メンバーのなかには伐ることへの違和感が生じる人がいてもおかしくありません。でも伐った樹をありがたく利用することまでを活動に組み込めれば、樹を伐ることの意義が伝わりやすいし、それこそが先人の暮らしの一端を知ることにつながると思うのです。薪や炭の材料、シイタケのほだ木として定量的に使えるのがベストですが、イスやベンチ、小物などの木工材料としても使える素材なので（そちらの用途のほうがCO₂固定の意味では優れている）、積極的な利用が望まれます。これは、クヌギやコナラの伐採に限ったことではありません。除伐対象になるシノやヒサカキは、本来里山のやっかいものではないからです。シノは農作業の資材として、また七夕やお札を架けるのに利用できます。ヒサカキは立派な神木です。除伐を晦日に設定するのもいいし、堅く緻密な幹は、木工に適しています。伐りっぱなしにするのはあまりにもったいない。大いに利用していきましょう。

雪の降った後にノウサギの足跡

話は、町有林での観察に戻りますが、年明け2日目、大晦日に降った雪の後を行きましたが、あぜ道から林縁にかけてノウサギの足跡をいくつか確認することができました。彼らは、若木の樹皮や冬芽、わずかに広がるシユンラン、カンスゲなどの常緑の葉をかじってこの厳しい季節を乗り切っているのでしょうか。この足跡が来年以降さらに増えていることを期待しています。

滝ノ沢町有林周辺の秋冬の鳥

百武 充

私はみどりが丘団地に住んでいるので、毎月1～3回、晴天の日の午前中に団地西側、北越公園のわきから赤芝沼により、角山高谷線道路を北東に進み、町有林入り口から北側の谷津田との境を歩道の終点まで入り、引き返してさらに角山高谷線道路を中高谷集落の入口まで歩いて鳥を観察しています。歩く距離は約1.5キロ、時間は大体片道1時間半というところです。

2004年1月から3月と、同年10月から2005年2月までの間に観察できた鳥を表にしてみました。2シーズンだけの記録ではまだ穴が多いので、月別の表にはせず、出現個体数も省略して鳥のリストだけ掲げます。

15回の観察で全部で42種類の鳥を見ています。このほか、たとえばコジュケイは春にはよく声を聞いているので一年中このあたりにすんでいることは間違いないのですが、冬はまったく見ることがありません。また、一昨年以前の同じ季節にこの地域で観察したハクセキレイ、カヤクグリなども昨年と今年の冬は記録できずにいます。このように抜けている種類がいくつかありますが、秋から冬にかけてみられる鳥の概要は、大体わかっているだけだと思います。

昨年秋はカシラダカの渡来が遅く、また、いつもの冬にはふつうに見られるモズがほとんど姿を見せないなど、いくつか気になる変化が見られたのですが、年が明けて山岳地帯の雪が深くなつてからはマヒワの群れも居着くなど、冬鳥についてはほぼ例年なみに見られる状態になっています。ただ、町内でここ数年の間に非常に個体数が増えた東南アジア原産のガビチョウが、いつもはこの時期さえずりが数多く聞こえるのに、この冬は非常に少なく、ほとんど声を聞かせません。

カシラダカなどの冬鳥たちは、3月にはいるとそろそろ移動をはじめ、冬鳥は次第に少なくなつていきます。そして、渡りの遅いツグミなども4月中旬までには姿を消して、里山は春を迎えます。

注1 種名後ろの*は『小川町の自然・動物編』P162～177（小川町の鳥類・小杉昭光）に記載のない種を示します。

注2 渡り区分欄の記号は次のとおりです。 R：留鳥
W：冬鳥 T：通過
なお、渡りの区分は小川町の区域を基準としましたが、あまり厳密なものではありません。

注3 数は出会いの多少で、A；多い B；比較的多い
C；少ないを示します。個体数の多少とは比例しません。



科名	種名	渡り	数	摘要
ウサギ	カワウ	T	C	ときに上空を飛行する
タカ	アオサギ	T	C	"
	トビ	T	C	"
	オオタカ	R	B	上空を飛行するほか、とまっていることもある
	ノスリ	W	B	"
カモ	コガモ	W	C	赤芝沼
	カルガモ	R	C	"
ハト	キジバト	R	A	赤芝沼
カワセミ	カワセミ	R	C	"
キツツキ	コゲラ	R	A	車道沿いの水田
	アカゲラ	R	C	"
	アオゲラ	R	C	
セキレイ	キセキレイ	R	B	
	セグロセキレイ	R	B	
	ビンズイ*	W	B	
ヒヨドリ	ヒヨドリ	R	A	
モズ	モズ	R?	A	
	ミソサザイ	W?	C	町有林 2004.2.13, 3.22
ツグミ	ルリビタキ	W	A	00年頃から急激に増加した
	ジョウビタキ	W	A	
	アカハラ*	W	C	
	シロハラ	W	B	
	ツグミ	W	A	
	トラツグミ*	W?	C	
ウグイス	ウグイス	R	A	
チメドリ	ガビチョウ*	R	A	
エナガ	エナガ	R	B	
シジュウカラ	シジュウカラ	R	A	
	ヤマガラ	R	B	
メジロ	メジロ	R	A	
ホオジロ	ホオジロ	R	A	
	カシラダカ	W	A	町有林 2005.1.3, 2.9
	ミヤマホオジロ	W	C	
	アオジ	W	A	
	カワラヒワ	R	B	
	ベニマシコ*	W	C	団地斜面林 2005.1.28, 2.9
	マヒワ	W	C	
	シメ	W	C	
ハタオリドリ	スズメ	R	A	
カラス	カケス	W	A	秋口には多いが1月以降は少ない
	ハシボソガラス	R	A	
	ハシブトガラス	R	C	

滝ノ沢町有林周辺観察鳥類リスト(2004.1～3, 2004.10～2005.2)

枝打ちは森林将来像を描きながら 「森林サポーター初心者研修会」に参加して

水上俊明

2月11日に小川町木呂子にある県農林公社管理地において、「埼玉県森林サポーター初心者研修会」が県庁の森づくり課主催で行われ、里山クラブでは、佐藤さん、馬場さん、木村さん、高橋さん、私の5名が参加しました。

朝9時に小川町駅に行き、主催者側の手配した送迎バスで現地へ到着、すでに自家用車で現地集合していた人達と合流。研修生は30名程であった。研修会場は、谷津田を含む雑木林と人工針葉樹林からなっていた。田んぼや池には厚く氷が張っていたが、集合場所は周囲の山が風を遮り、穏やかな陽だまりで青空教室には最適な場所でした。

受付を済ませ、一通りのオリエンテーションの後、講師の森林インストラクターの小林さんが1時間ほど、森林の除伐・枝打ちを中心とした林内作業の講義を行い、その後は昼食をはさんで会場のヒノキ林の除伐・枝打ちの実習をおこなった。実習は用意されたヘルメットと安全メガネを装着し、ナタより安全に作業できるノコギリを使用した。研修会の性格上、安全重視の比較的楽な作業であったが、人海戦術で実習前は暗かった人工檜林はすっきり明るく見通し良くなり、われわれは研修生と森林作業要員の一石二鳥の役割を無事果たすことができました。帰りのバスの中で外の景色を眺めながら、この研修会を通じて学んだことを反芻したら以下のようになりました。

1. 作業時の服装、用具と作業自体への安全の配慮
2. 無駄な力を使わない効率的な動作（例えば、少ない回数でノコギリを挽く）。
3. ひたすら作業に没頭することなく、森林の将来像を想い描きながら作業する。
4. ときには休息しながら景色を楽しみ、伐採物などをお土産にする心の余裕。

いつか、私も森林インストラクターのように人に森林との付き合い方を教えられる人に成長できるといいなと思いました。



里地 飯田体験広場(飯田石船谷888)

この広場は小川町の環境基本計画で町民主体の里地体験ゾーンとして位置付けられ、次のような活動を行っています。



伝統的な生活の中の知恵や技術の伝承



炭焼き、しいたけ・ナメコ等の植菌、竹細工、藁かご作り、落ち葉の堆肥作り、
楮刈りと手漉き和紙作り、里山の管理技術 炭による水質浄化と土壤改良実験、



隣接する寺山、谷津田、溜め池、広場の池をビオトープ空間として位置付け
螢の里作り



山菜、薬草、キノコ、野鳥、昆虫小動物の調査と記録



里山文化の発信
交流会、講演会、コンサート、機関誌「雑木林」の発行

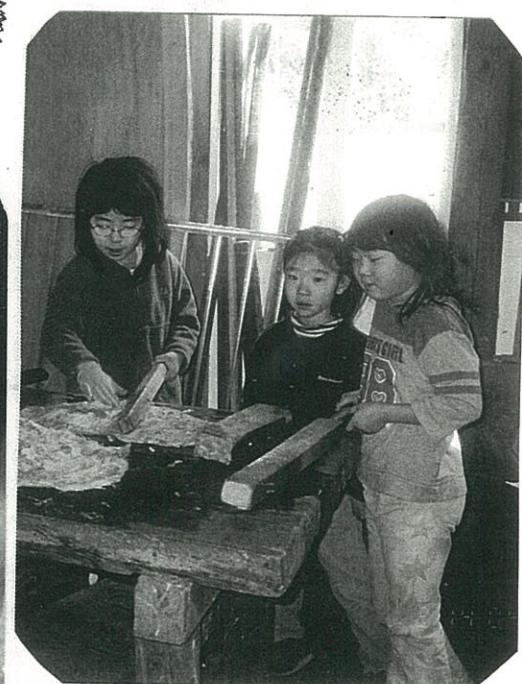


都市と農村を結ぶグリーンツーリズムの拠点作り

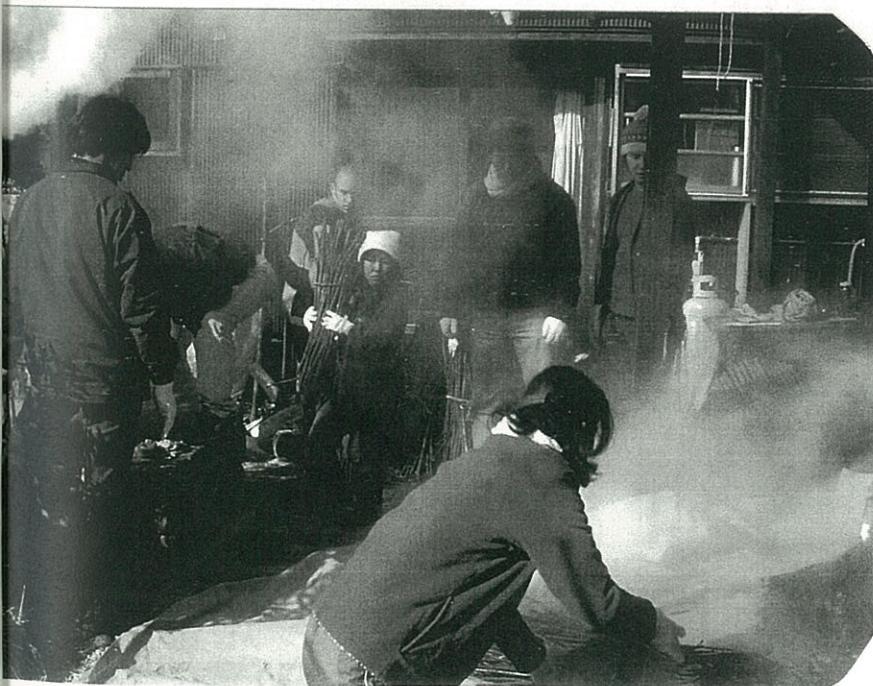
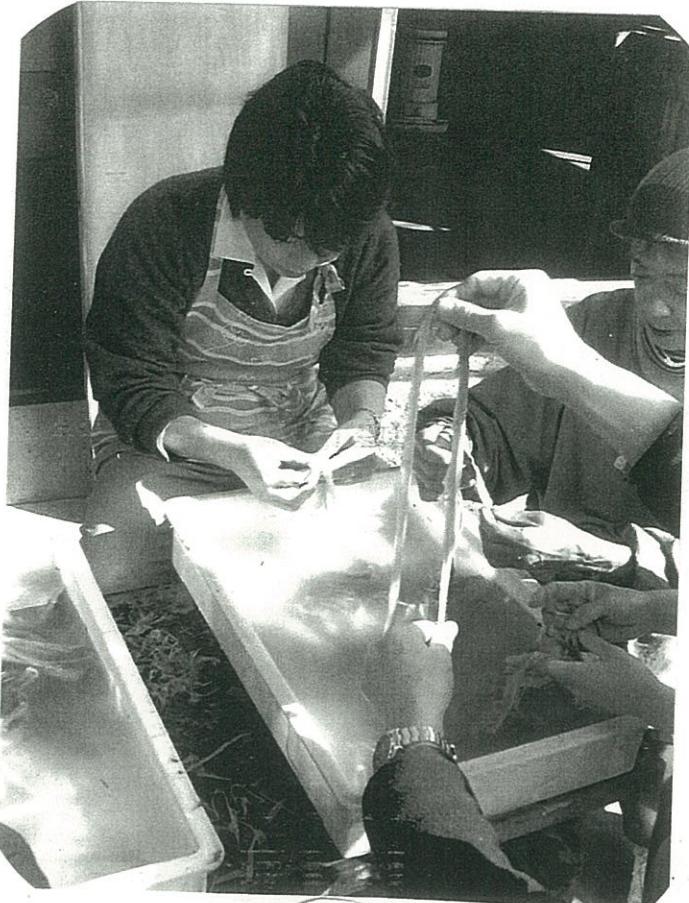
小川町の冬は和紙を漉く
水音からやつてきます

和紙の心と対話する

自然素材が息づく和紙の良さは
“しなやかさ”“強さ”“温かみ”



● 楠(こうぞ／クワ科)
環境にうまく適応し、栽培が簡単。
古今を通じ、和紙原料の大半を占めています。太く長い纖維をもつ楮
紙は、しなやかで強靭な紙です。



音や光を小糸に演出
和紙はすぐれた“内装材”

身の回りに華やぎをそえる
“小間紙”(こまがみ)



リチャード・フレイビン

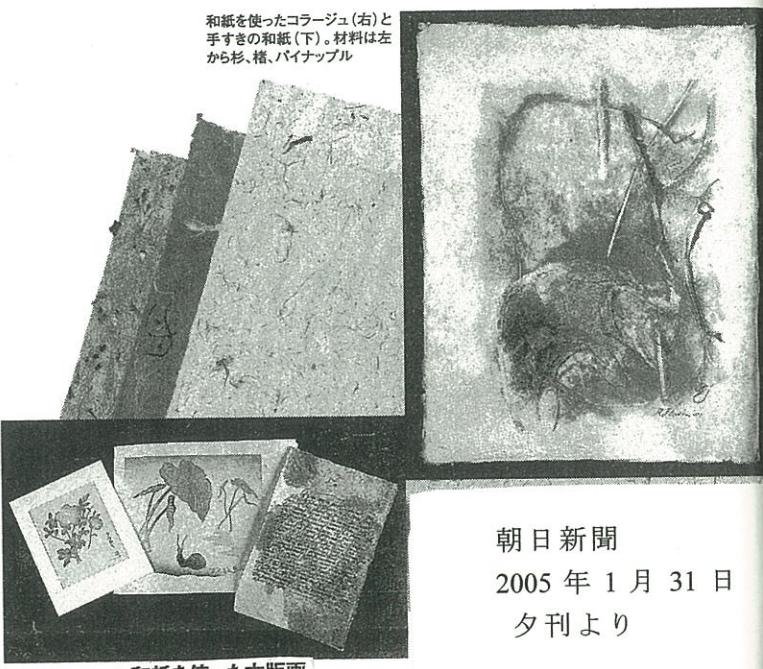
1943年アメリカ・マサチューセッツ州ボストン生まれ。1972年から2年間東京芸術大学で木版画を学ぶ。1976年埼玉県製紙工業試験場(当時)で手すき和紙の研究を始める。以降、埼玉県比企郡小川町に在住し、楮の栽培から紙づくり、版画、コレージュ、製本、装丁まで手がける。
※おことわり／取材後、リチャード・フレイビン氏の住まいと工房は火災により焼失していました。この企画はフレイビン氏の了解のもと掲載したものです。

小川町に和紙づくりの学校を作ること

伝統的な文化、技術の継承を目的として楮の栽培、刈り取り、皮むき等の和紙体験をフレイビンさんの和紙工房を使って体験させていただきました。

1月の火災で工房は全焼してしまいましたが、和紙のふるさと小川町のためにつくした彼の夢は、小川町に和紙づくりの学校を作ることといいます。

私たち里山クラブの夢と深く響き合います。



和紙を使った木版画

朝日新聞
2005年1月31日
夕刊より

小川町の魅力を発信

「自転車に乗っとて生まれてきたのでは？」といわれる程大好きな自転車。数年前には荒川の白鳥に会いに行きました。暴走族おばさんの私、里山クラブの温かい交流がうれしく、仲間に入れていただいております。

友人のリチャード・フレイビンさんは、米を作り楮を育て、個性豊かな素晴らしい作品を制作される大きな身体の優しい心の持ち主。

「僕は惚れっぽくって…」と以前に話されていました。惚れっぽいからこそ版画の世界から小川町の和紙へ、そして様々な日本文化へと愛情を深められ、フレイビンさんを囲む輪はますます拡がり、小川町の魅力を発信してくださることでしょう。私もフレイビンさんに負けないよう、大いに惚れっぽくなりましょう。年には関係ないですものね。

フレイビンさんの夢「和紙の学校」の開校を待っています。

東海林阿佐子

仙元山登山とバードウォッチング

百武 充

1月の予定が雨で1ヶ月延期になり、2月26日に行いました。この日、空は晴れましたが北風が強く、真冬に逆戻りしたような寒い日でした。それでも参加者16名は元気に10時に伝統工芸館に集合、予定どおり楓川に沿って下里に行き、以下見晴らしの丘～仙元山頂～青山城址～下里と歩き、予定を少し遅れて2時半ごろ伝統工芸館に戻って解散しました。

この日、空気は澄んで関東平野は一望の下、新宿の高層ビル群や遠く筑波山もはっきり見えました。しかし、浅間山を見ようと行った見晴らしの丘の展望台からは、上越国境が雪雲におおわれていて浅間は見えず、北方の日光連山も山頂は雲の中でした。

鳥は稜線には少なく、楓川や登山道の沢沿いで多く見られました。林の中の鳥は、なかなか全員でゆっくり見るというわけにいかないのが難点ですが、河原にいる鳥などはわりあいよく見えたかと思います。

見た鳥 カワウ、コサギ、イソシギ、トビ、コガモ、キジバト、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ルリビタキ、ツグミ、エナガ、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、クロジ、カワラヒワ、ベニマシコ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス計26種

このうち、クロジとベニマシコは「小川町の自然・動物編」の鳥類リストには載っていません。

ベニマシコは夏は北海道などの原野で繁殖し、冬は本州以南に渡来するアトリ科の鳥で、町内では少ないながら、私はほぼ毎年冬には観察しています。ただ、今まで出会ったのは地味な色のメスか若鳥が多く、オスはなかなか観察できませんでした。今回は数羽の群れの中に淡いバラ色のオスもいて、よく見ることができました。

また、クロジは本州亜高山帯の森林などで繁殖し、冬は低地に下りてくるホオジロ科の鳥ですが、個体数は少なく、分布は限られています。町内にもおそらく来ているだろうと思いながら、今まで観察する機会がなかったものです。この日は下里から登山道をたどり始めて少し行ったところで、歩道に出てエサを探している全身チャコールグレイのオス1羽をゆっくり見ることができました。もう1羽、ササやぶの中にいたメスちらりと見えました。当日配布した資料の最後に「観察できる可能性がある」と書いておいたのですが、それが当たりで、私にとっては今回が町内で初の確認となり、うれしい収穫でした。

05.02.26

(当日配付資料)

仙元山バードウォッチング・チェックリスト (小川町里山クラブ)

<input type="checkbox"/> カイツブリ	<input type="checkbox"/> カワウ	<input type="checkbox"/> アオサギ	<input type="checkbox"/> コサギ
<input type="checkbox"/> ノスリ	<input type="checkbox"/> オオタカ	<input type="checkbox"/> トビ	<input type="checkbox"/> カルガモ
<input type="checkbox"/> コガモ	<input type="checkbox"/> キジバト	<input type="checkbox"/> カワセミ	<input type="checkbox"/> コゲラ
<input type="checkbox"/> アカゲラ	<input type="checkbox"/> アオゲラ	<input type="checkbox"/> キセキレイ	<input type="checkbox"/> ハクセキレイ
<input type="checkbox"/> セグロセキレイ	<input type="checkbox"/> ヒヨドリ	<input type="checkbox"/> モズ	<input type="checkbox"/> ミソサザイ
<input type="checkbox"/> ルリビタキ	<input type="checkbox"/> ジョウビタキ	<input type="checkbox"/> ツグミ	<input type="checkbox"/> ウグイス
<input type="checkbox"/> エナガ	<input type="checkbox"/> コガラ	<input type="checkbox"/> ヒガラ	<input type="checkbox"/> シジュウカラ
<input type="checkbox"/> ヤマガラ	<input type="checkbox"/> メジロ	<input type="checkbox"/> ホオジロ	<input type="checkbox"/> カシラダカ
<input type="checkbox"/> アオジ	<input type="checkbox"/> カワラヒワ	<input type="checkbox"/> シメ	<input type="checkbox"/> イカル
<input type="checkbox"/> スズメ	<input type="checkbox"/> ムクドリ	<input type="checkbox"/> カケス	<input type="checkbox"/> オナガ
<input type="checkbox"/> ハシボソガラス	<input type="checkbox"/> ハシブトガラス	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

似た種類を見分ける

セキレイのなかま

共通の特徴 1. ほっそりした体型で尾が長い

- 開けた地上や河原にいることが多い、木の枝にはめったにとまらない
- いつも尾を振っている
- 小走りによく歩く



キセキレイ



ハクセキレイ



セグロセキレイ

- キセキレイ

おなかが黄色。メスののどは白い。

- ハクセキレイ

顔の大部分が白い。声は澄んでいる。夏羽は背中が黒い。

- セグロセキレイ

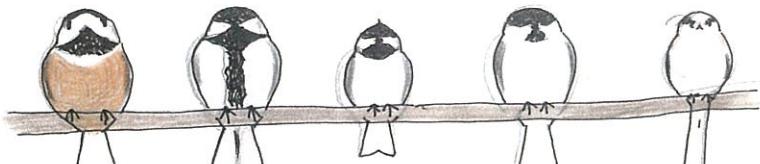
顔の大部分が黒い。声は濁る

シジュウカラのなかま

共通の特徴 1. 頭が黒く、ほおが白く、背中はグレイ

- 木の上にも地上にもいる

3. 秋冬には何種類かが混じった群れを作っていることが多い



ヤマガラ シジュウカラ ヒガラ コガラ エナガ

ホオジロのなかま

- 共通の特徴 1. 大きさや体型はスズメに似る
2. 全体の色は褐色系
3. 外側の尾羽が白く、飛び立つときなどに目立つ
4. 地上でエサを探していることが多い
5. 小さな群れでいることが多い

標準パターン



ホオジロ（オス）



カシラダカ冬羽



カシラダカ夏羽オス



アオジ（オス）



ミヤマホオジロ（オス）

1. ホオジロ 留鳥。 背中は明るい褐色。 おなかは一様な淡い褐色。

オス 頬は白と黒のパターン。

メス 頬は標準パターン。

2. カシラダカ 冬鳥。 背中は褐色。 おなかは白く胸に斑点の列からなる帶がある。 尾はホオジロより短い。 冬羽はオスメス似ている。 オスの夏羽は顔が黒と白。

3. アオジ 当町では冬鳥。 背中はみどりがかった褐色。 おなかは黄色、脇に褐色の斑点がある。

オス 頬はかなり黒く見える。 眉の筋は見えない。

メス 頬は標準パターン。 おなかの黄色はうすい。

* 1年目の若鳥はおなかが黄色くない。

4. ミヤマホオジロ 冬鳥。 顔に黄色いところがある。 短い羽冠がある。 腹は白く脇に斑点がある。

オス 頬は黄色と黒のパターン。

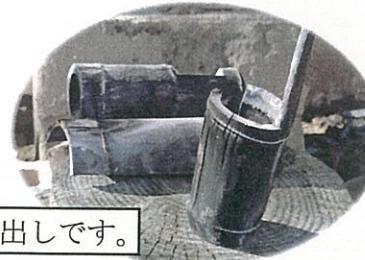
メス 頬は褐色と薄い黄色のパターン。

* ほかにクロジも観察できる可能性がある。 これは外側尾羽が白くない。

*里山体験広場フォトアルバム

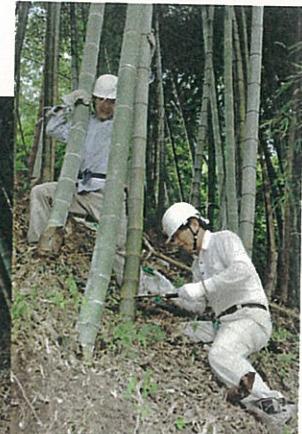
竹炭をつくろう！

2004年9月19日 近くの竹林で材料の切出しです。



2004年9月～2005年1月

撮影・構成 吉川弘樹



2004年10月17日 竹割りと竹細工。



2004年11月21日 竹炭焼きとお楽しみのイモ煮会。



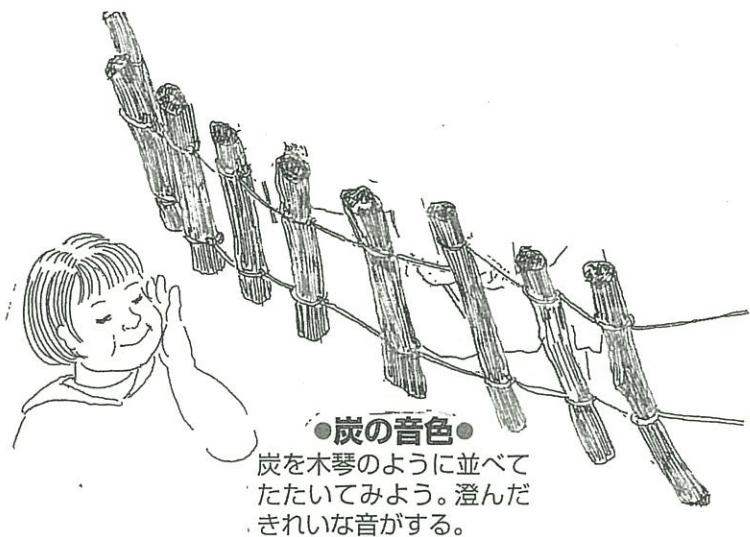
竹炭!

2005年1月9日 大晦日に積もった雪がまだ残る中、この日はいよいよ窯出しです。



<竹炭>とは、自然のミネラルが豊富な孟宗竹を素材として、800℃～1200℃で焼き炭したもので、細かい無数の孔があいています。(800℃前後で焼き上げたものは、開孔率が最高で、吸着力が最も強い) 備長炭に比べ表面積が2倍以上、吸着力が10倍以上あると言われています。

竹炭には、竹が成長する時に土の中から吸い上げたカルシウム・ナトリウム・鉄分などの自然のミネラルがバランス良く含まれていて、数多くの優れた特性を持っています。



竹酢液のパワー

① 自然の消毒・消炎効果

虫刺され・水虫・あせも・アトピー・お肌の美容に効果あり。うがいや歯磨きに使うと口の中が殺菌されます。

② 自然の消臭・忌避効果

生ゴミ・まな板・冷蔵庫・おトイレに吹きかけるだけで消臭し腐敗を抑制します。

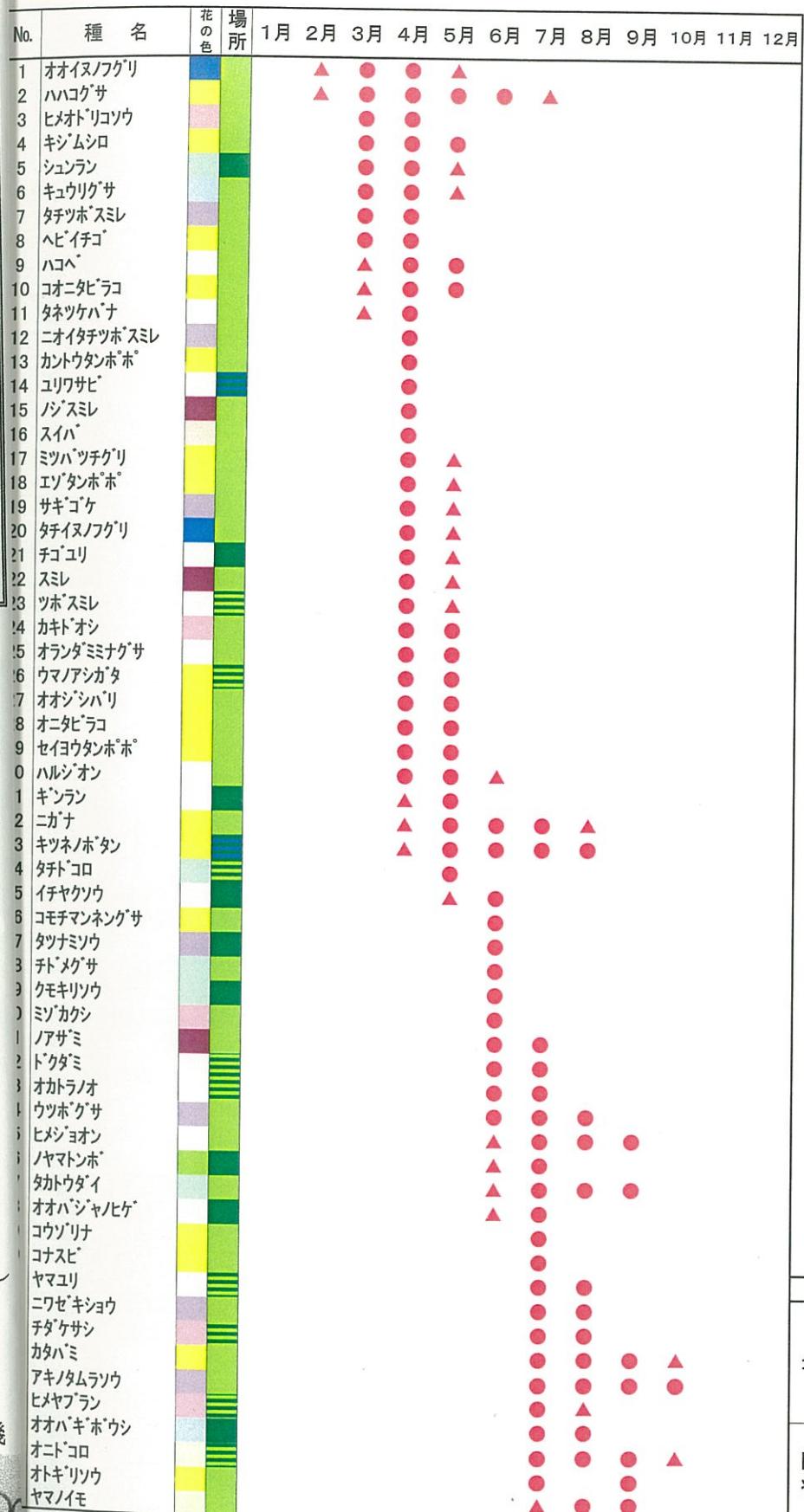
③ 自然の入浴剤

水を柔らかくし、遠赤外線効果で体があたたまり湯冷めを防ぎ天然のミネラルが吸収できます。

④ 家庭菜園・ガーデニングに最適

葉面散布による成長促進・病害の防除・防虫効果・土壤の改良消毒・堆肥づくりに効果があります。野菜・果物・穀物の糖度をあげ、美味しく育てます。

滝ノ沢町有林 花暦(草本編)

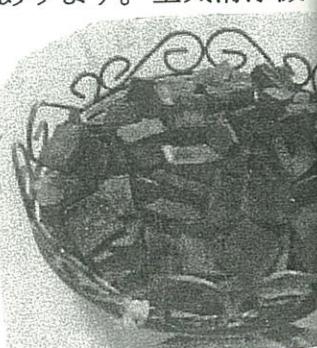


竹炭焼きの一日

背に朝陽を浴びて竹炭を焼く
鶯が歌いカワセミが鳴く自然の流れ
風が光を受けて体を吹き抜けていく
夕陽の中に一匹の狐
窯の中のドラマは煙の色
白から青へ 紫へ そして透明に
竹炭と竹酢液はこうして誕生しました

2004年 5月
窯番人 佐藤 章

- ① 消臭 忌避効果
- 竹炭には虫が寄りつかない忌避効果、菌が繁殖しにくい滅菌効果があります。竹が自分の身を守るための力をひき出したものです。花瓶に入れると水が腐らず花が生き活きます。米びつやクローゼット、洋服ダンスの防虫剤になります。
- ② 遠赤外線効果
- 竹炭からは遠赤外線が自然に放出されています。お風呂に入れると血行促進・細胞の活性化・疲労回復に効果あり。ごはんと一緒に炊くと美味しい炊きあがり酸化防止作用で腐りにくくなります。
- ③ 自然のミネラル
- 竹炭にはミネラル（カルシウム・カリウム・鉄分・ナトリウムなど）が多量に含まれています。水に入れるとアルカリミネラル水となり、飲料水やお風呂で使うとこれらが吸収できます。お茶・コーヒー・紅茶・水割り・氷などが美味しいだけます。
- ④ マイナスイオン
- 竹炭はマイナスイオンを発生し人にとて癒しの効果があります。空気清浄機の役割をします。

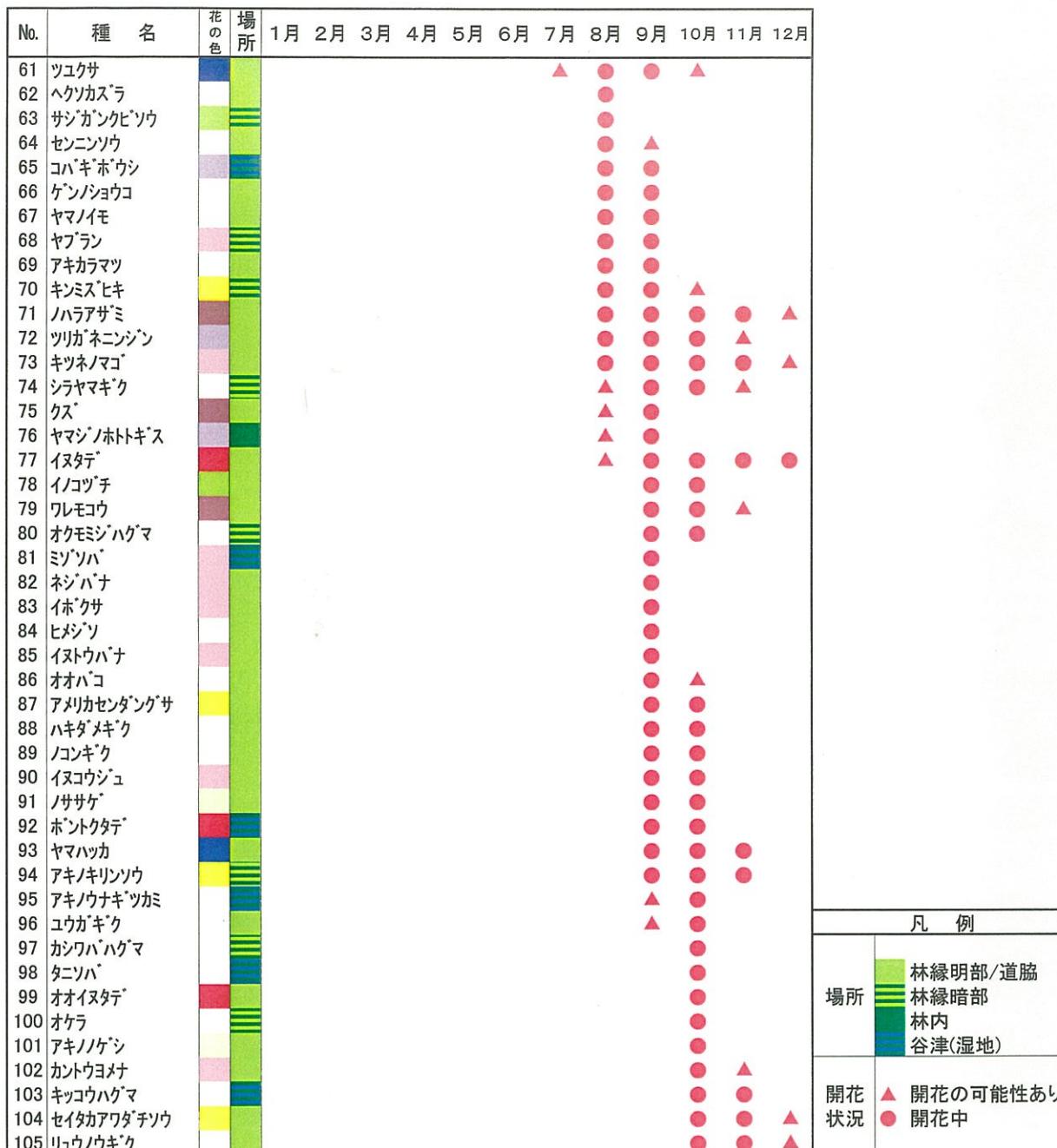


2003-2004年の観察データによる。イネ科、カヤツリグサ科植物は除く。

里山クラブ活動の記録

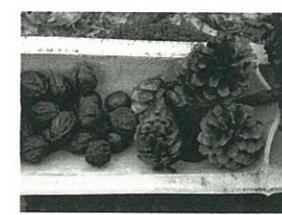
(2004年9月～2005年3月)

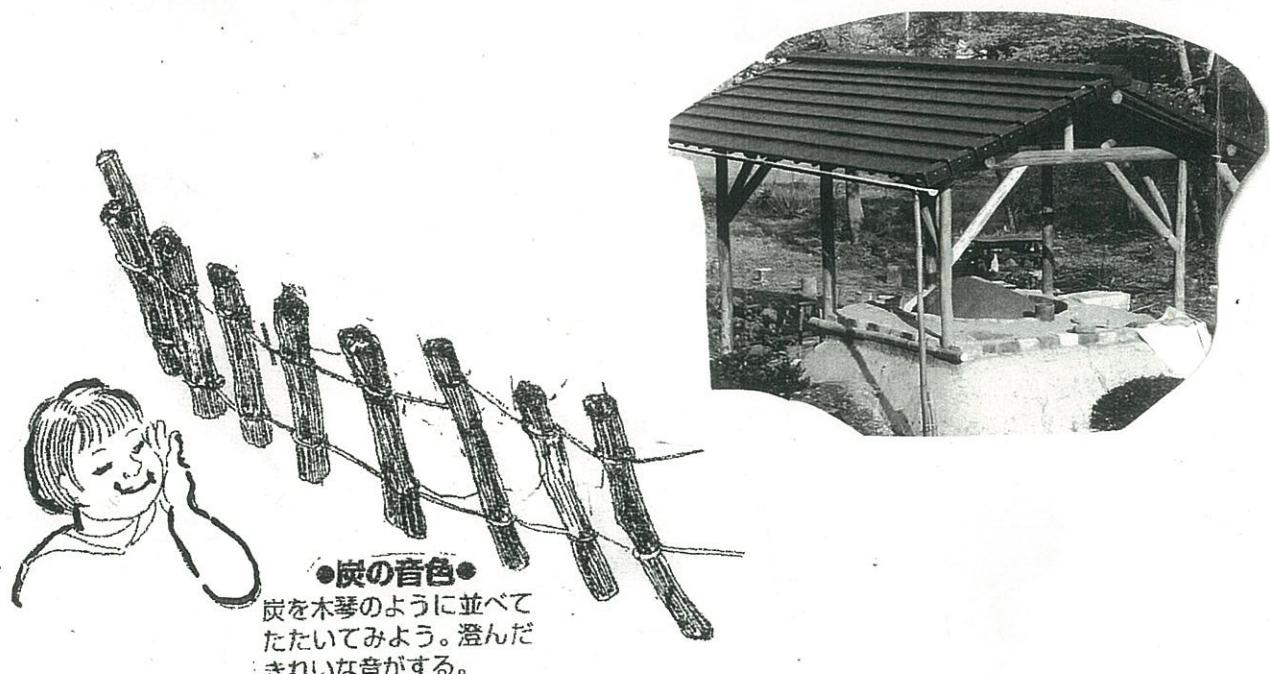
里山クラブ事務局



2003-2004年の観察データによる。イネ科、カヤツリグサ科植物は除く。

- 9月19日（日） 竹の伐採・運搬、交流会（体験広場）
 会誌“雑木林第3号”発行
- 10月10日（日） 埼玉きのこ研究会現地研修会に参加（小川町金勝山）
- 10月11日（日） 鑑賞炭焼き・竹割り（窯詰め準備）
- 10月17日（日） 町有林の調査、きのこのほだきの伐採（町有林）
 竹加工（体験広場）
- 11月13日（土） 体験広場の整備、ナメコ汁を囲んで（体験広場）
- 11月21日（日） 竹炭用の竹の窯詰め、大イモ煮会（体験広場）
- 11月28日（日） 炭材・きのこ材の伐採（町有林）
- 12月12日（日） きのこ材の玉切り、ベンチ作り（町有林）
- 1月9日（日） 窯（竹炭）開き、親睦会（体験広場）
- 1月16日（日） 新春里山探訪・冬鳥観察会（延期）
- 1月23日（日） 楢の刈り取り（飯田）
- 2月13日（日） 町有林整備計画作成（計画書・資料集）
- 2月20日（日） 町有林の下刈り、憩いの広場ベンチ作り（町有林）
 町有林整備計画書（計画書・資料集）の配布
- 2月26日（土） 早春里山探訪・冬鳥観察会（仙元山）
- 3月20日（日）（予定） 町有林の整備・キノコのほだ木材搬出（町有林）
- 3月27日（日）（予定） キノコの植え付け講習会・竹炭材の窯詰め
 （体験広場）





●炭の音色●
炭を木琴のように並べて
たたいてみよう。澄んだ
きれいな音がする。



小川町里山クラブ "You-You"

雑木林編集部連絡先 : 〒 3:

馬場 信一 (Tel